



ビデオ会議室のセット
アップと設備について

目次

会議室の設計

- 1.会議室の音響構造
- 2.照明
- 3.会議室の色
- 4.家具
- 5.その他の留意点

装置設置のヒント

- 1.カメラ
- 2.ディスプレイ
- 3.オーディオ（スピーカーとマイク）
- 4.関連機器
- 5.ハブ / ドック
- 6.タッチコントローラー
- 7.スケジューリングパネル
- 8.ケーブル管理

本書は、効果的なビデオ会議スペースを設置するための実践的な実践ガイドです。

ビデオ会議用の会議室の設備や設定には、次のような要素があります：

- 会議室の規模
- 必要な機器のタイプ
- 会議室の設計
- 機器のセットアップ

会議スペースの設計方法や会議室の備品設置のヒントなど、実践的な内容については、こちらをご覧ください。

会議室の設計

このセクションでは、照明や音響の検討から最適な家具の選択まで、ミーティングスペースそのものを取り上げます。

原則として、会議室の各要素は場所に関係なく、誰もが見たり聞いたりする効果的なリモート会議を促進するために、慎重に選択する必要があります。



1. 会議室の音響構造

考慮すべき最初の最も重要な側面は、音響です。会議室は有意義な対話を可能にするために作られるため、その音響特性を確保することは非常に重要です。

→ ベストプラクティス

- **床:** サウンドを吸収して家具の騒音を減衰させるのに適したフローカーペットまたはその他の柔らかい素材を使用してください。
- **天井:** 部屋の残響を減らすために、天井には特殊な音響タイルや吊りパネルを選びましょう。
- **壁:** 吸音材を壁に取り付けることを検討してください。理想的には、少なくとも隣接する2つの壁に吸音材でできたパネルを設置するとよいでしょう。

→ 避けるべきこと

- 音を反射する表面は、音質を損なう可能性があります。つまり、石やガラス、金属などの硬い素材を使わないようにしてください。
- 同じ理由から、硬材のフローリングまたはタイルも使わないようにしてください。

2. 照明

特にビデオ通話用に設計された会議スペースでは、照明光源と配置も考慮する必要があります。

→ ベストプラクティス

- ブラインドやカーテンなど、必要に応じてルームライトを柔軟に制御できます。
- 「ニュートラルホワイト」 LED 照明 (4500 から 5000 Kelvin) をご使用ください。

→ 避けるべきこと

- 会議参加者の背後に設置された、強力で集中的な光源 (スポットライトなど)。特にリモート参加者に向けた映像では、参加者が見えにくくなります。

3.会議室の配色

鮮やかな色の会議室はデザインの観点から見ると素晴らしくても、ビデオ通話の気が散ったり、歪みの原因になる恐れがあります。

→ ベストプラクティス

- 参加者が会議に集中できるよう、ベージュやグレーなどの中間色にこだわしましょう。
- 明るいブランディング要素を適度に使用し、理想的にはビデオカメラの視野に入らない場所に配置してください。

→ 避けるべきこと

- 明るい原色（赤、青、緑、黄）。このような色は、会議参加者のビデオフィードでの表示方法に悪影響を及ぼす可能性があります。
- 視覚的に気が散る壁の装飾や模様。



4.家具

家具は、会話を円滑にし、遠隔地の参加者が会議室の参加者と交流する上で重要な役割を果たします。

→ ベストプラクティス

- 半円にテーブルを並べます。最も幅の広い部分がカメラに近づけます。これにより、会議室にいる全員が見えるようになります。中規模から大規模の会議室では、円錐形のテーブルが適しています。
- さまざまなタイプの会議に対応できるよう、自由に動かせる軽量でポータブルな椅子に投資しましょう。

→ 避けるべきこと

- カメラの視野の外に座席を設置すること。
- テーブルの前面をカメラに幅の0.7倍以上近づけること。

5.その他の留意点

以下、効果的なビデオ会議スペースを設計するための一般的なガイドラインをご紹介します。

→ ベストプラクティス

- 配線をテーブルの下に収納するか、専用のケーブルコンシーラーを使用しましょう。
- ブラインド、カーテン、曇りガラス、または専用のプライバシースクリーンを設置することで、機密性の高い会議が実現します。

→ 避けるべきこと

- 会議室の視覚的に雑然とした、または注意散漫になる要素。
- 会議参加者の気が散る原因となる不要な家具や装飾品。

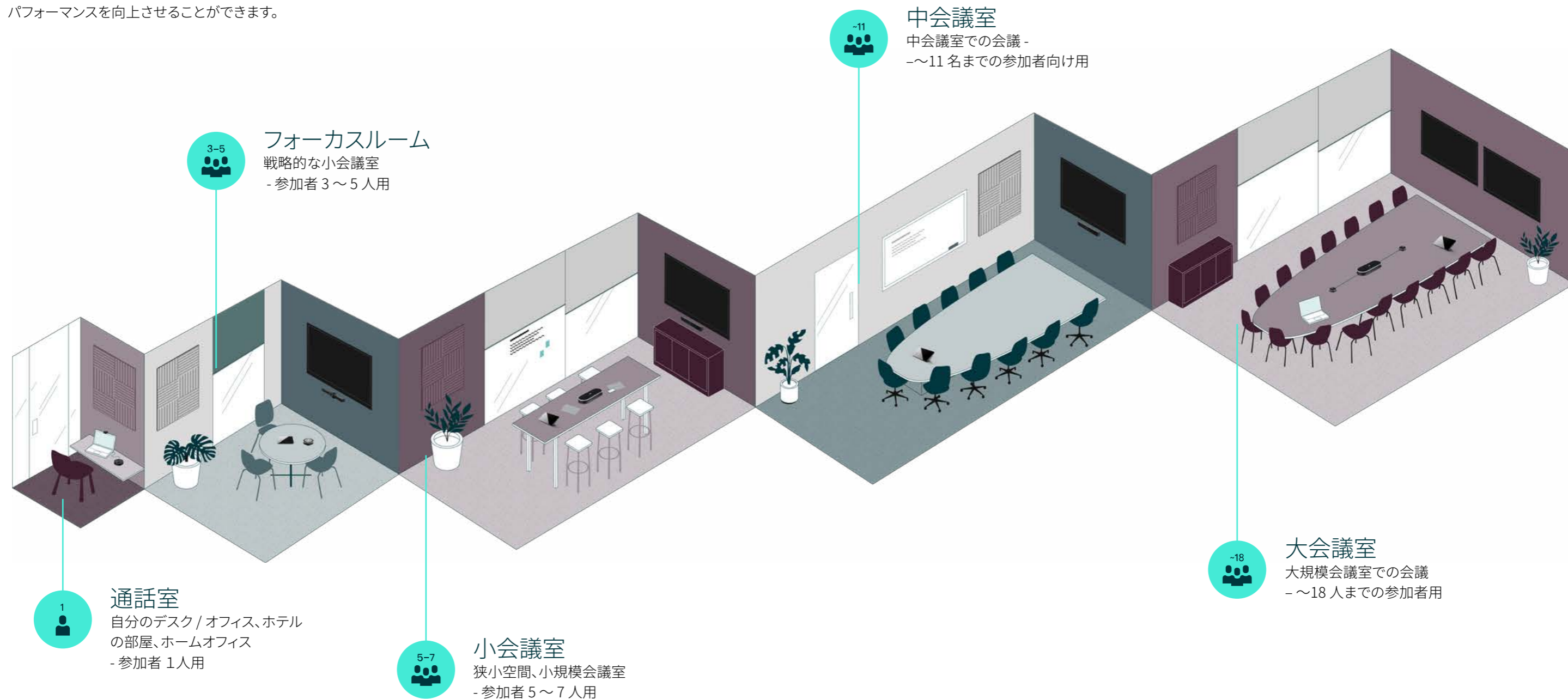
シームレスなコラボレーションを体験

EPOS EXPAND Lineのすべての製品は、明瞭な会話、使いやすさ、お使いのデバイスとの接続性を考慮して設計されています。

EPOS は、脳のために設計された音声と映像により会議の両側でコミュニケーションとパフォーマンスを向上させることができます。

これにより

- 集中力の向上
- ストレスの軽減
- 生産性の向上につながります



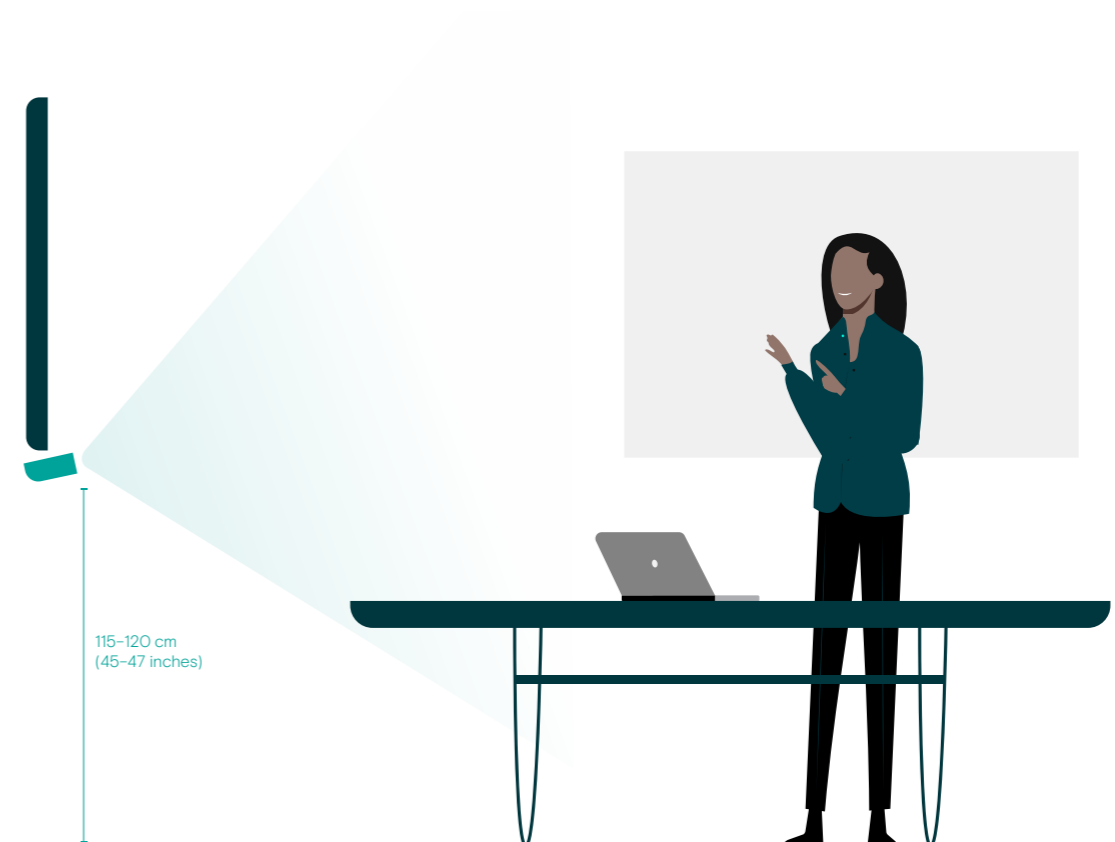
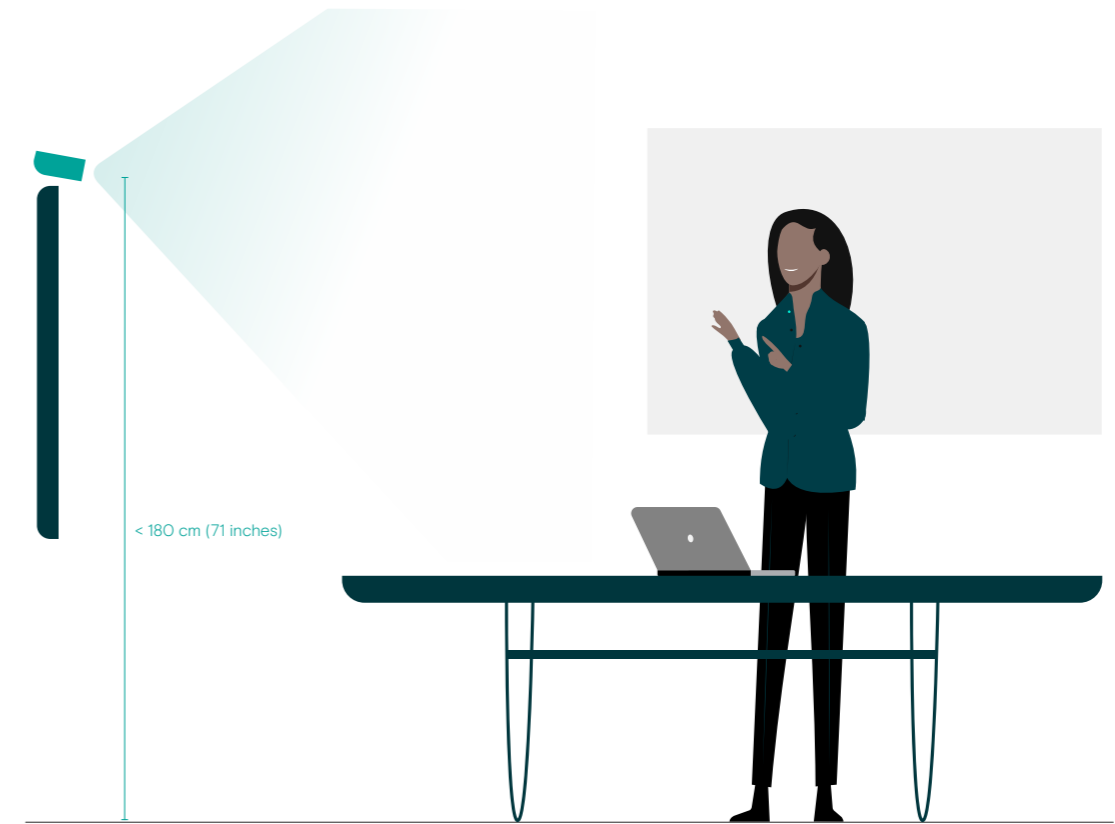
装置設置の ヒント

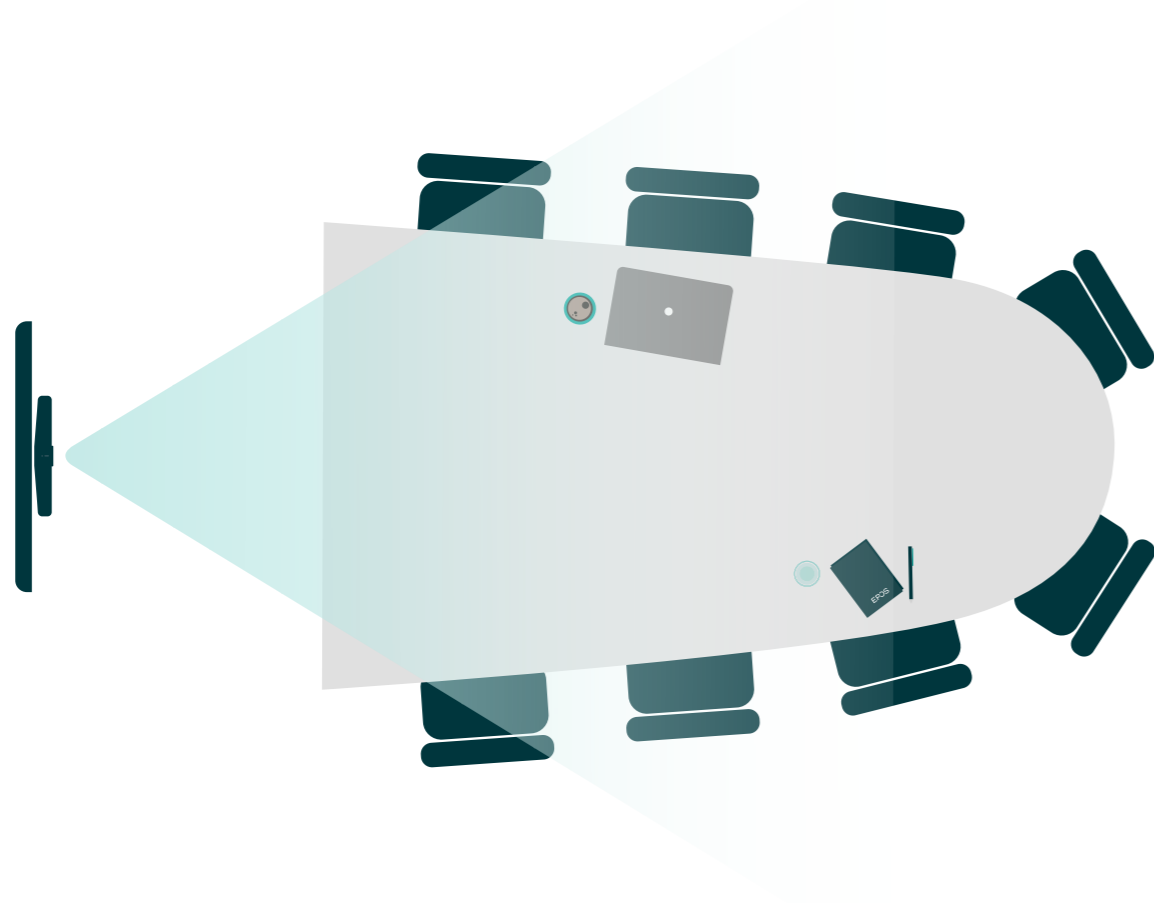
1.カメラ

会議室のカメラは、会議室にいる全員を撮影できなければなりません。留意点：

- カメラは参加者の目の高さに合わせ、会議室の中央に向けてください。可能であれば、カメラを画面の真上か真下に設置してください。
- カメラを目の高さより上または下に設置する必要がある場合は、パン、チルト、視野角を調整できるカメラを選択してください。
- カメラ/ビデオバーをスクリーンの下に設置する場合、床からカメラレンズまで115～120cm (45～47インチ) が理想的です。
- カメラ/ビデオバーをスクリーンの上に設置する場合は、鳥瞰図にならないよう、床から180cm (71インチ) 以下に設置してください。
- 部屋全体と参加者を撮影できる適切な視野 (FOV) のカメラを選択してください。

EPOS EXPAND Vision 5 などの内蔵スピーカーを備えたコンパクトなオールインワンの会議カメラで、設定プロセスを簡素化してください。





2.ディスプレイ

効果的な遠隔会議を行うには、適切なスクリーンを選び、適切な位置に設置することが重要です。

- **ディスプレイの数：**可能であれば、共有コンテンツ用と、遠隔地からのビデオ配信用に、2つのスクリーンを設置すると便利です。フォーカスルームや小規模な会議室では、通常1台のディスプレイで十分です。
- **ディスプレイサイズ：**ディスプレイのサイズは会議室の大きさによって変わります。原則として、最も遠くに座っている参加者は、テキストのような細かい詳細を簡単に確認できる必要があります。推奨視聴距離は、モニターの対角線の長さの1倍から4倍です。
- **ディスプレイの配置：**モニターは、着席している参加者の目の高さあたりに取り付けてください。これは通常、床から116～127センチ（46～50インチ）の間ですが、カメラの配置に大きく左右されます。
- **ディスプレイ設定：**リアルタイム通信を容易にするため、可能な限り低遅延を確保します。（モニターに「ゲーム」または「PC」モードがある場合は、それを有効にしてください）。スクリーンの解像度、明るさ、コントラスト、彩度は、遠隔地の出席者が最も自然に見えるように設定する必要があります。

3.オーディオ（スピーカーとマイク）

オーディオは、ビデオ会議で最も重要な要素です。オーディオ品質が悪い場合、参加者の集中力が低下し疲労が増します。

- 会場内のマイクが、着席している参加者全員の声を拾えることを確認してください。
- 音声トリガービームフォーミングマイクシステムを選択することで、可能な限りの最高の環境ノイズ除去が実現します。
- 大会議室でのベストプラクティスは、スピーカーフォンなどのテーブル中央のマイクシステムを使用し、長いテーブルの場合は拡張マイクを追加することです。
- マイクは必要に応じて、会議室のほとんどの場所から簡単にミュートできるようにしてください。

4.関連機器

ビデオ会議では、必要なソフトウェアを実行し、ビデオ/オーディオソースからのすべての入出力を処理する関連機器が必要です。利用できるオプションは、次のとおりです。

- **ビデオ・バー：**EPOS EXPAND Vision 5 のようなオールインワン・ビデオバーには、マイクやスピーカーだけでなく、計算機能が内蔵されています箱から出してすぐに使える最も完全なオプションで、セットアップも使い方も簡単です。
- **専用ITデバイス：**これは、関連機器が会議室に常設され、すべてのビデオおよびオーディオ機器にあらかじめ接続されている状態です。スクリーンの近くか後ろが最適です。参加者がリモートビデオ会議に参加するには、このコンピュータユニットに接続する必要があります。
- **持ち込みデバイス (BYOD)：**EPOS EXPAND Vision 1M のようなプロ向けカメラを使用するプラグアンドプレイの会議設定の形になっています。ユーザーは自分のノートパソコンを持参し、USBケーブルなどで接続することができます。この場合、ユーザーのノートパソコンは、必要な会議ソフトウェアを実行する機器としても機能します。



5.ハブ / ドック

一部のBYOD会議室では、ビデオカメラ、スピーカーフォン、モニター、ノートパソコンなどの中央接続ポイントとして機能する特別なハブまたはドックを使用しています。違いは以下の通りです。

- **ドック**：ドック（またはドッキングステーション）とは、ノートパソコンをはめ込んで使うワークステーションのことです。（主電源に依存する一部のケーブルコンバータは「ドック」とも呼ばれます）ドックは通常、ハブよりも大きく、接続された他の電化製品に電力を供給し、より多くのポートまたはケーブルコンバータを備えています。
- **ハブ**：ハブはよりシンプルで、主に接続されたノートパソコンで利用可能なUSBポートの数を拡張する役割を果たします。ハブは、バージョン（USB 2.0対USB 3.0）や接続タイプ（USB-A対USB-C）が異なるさまざまなUSBポートをサポートしています。一部のハブには、有線インターネット接続をサポートするイーサネットポートも装備されています。

6.タッチコントローラー

会議室のコントローラーで、ユーザーは簡単に会議を開始したり、画面上のコンテンツを共有するなどして、進行中の会議と対話することができます。

- **設置**：タッチコントローラーは、適切な **取り付け用アクセサリ** を使用して、テーブルまたは壁に取り付けることができます。重要なのは、すべての会議参加者に簡単に手が届くようにすることです。
- **接続**：接続はタッチコントローラーによって異なります。中には、USB経由で別のコンピューティングデバイスやビデオバー（上記参照）に接続し、コンテンツを共有するために別の電源ケーブルやHDMIケーブルを持っているものもあります。**EPOS EXPAND Control** のように、ネットワークと電源の両方を 1 本のイーサネットケーブルで接続するタイプもあります。

7.スケジューリングパネル

スケジューリングパネルは、従業員が会議を予約したり、会議室を予約したり、会議室の空き状況をすばやく簡単に確認したりするのに便利です。

- **設置**：スケジューリングパネルは、簡単にアクセスできるように、会議室の外の壁、エントランスの近くに設置される傾向があります。障害を持つユーザーを考慮して、ほとんどの人が簡単に到達できる高さに配置することが重要です。
- **取り付け**：**EPOS EXPAND Control** などの、プロのスケジューリングパネルは、**壁やガラスの表面専用の金具を使用して、ほとんどの表面に取り付けることができます。**



8.ケーブル管理

スマートなケーブル管理は、エンタープライズグレードの会議室に欠かせない要素です。スマートなケーブル管理により、ケーブルケーブルが絡まって邪魔になり、気が散って会議への参加に悪影響が出るのを防ぐことができます。

ケーブルを容易に保持する方法は次のとおりです。

- ケーブルタイを使用してケーブルをまとめ、きれいに整理します。
- HDMI/USBケーブルと電源ケーブルを同じケーブルタイにまとめないようにしてください。
- 固定式ケーブルタイマウントを使用して、ケーブルの束を固定します。
- 壁や床を横切るケーブルは、ケーブル配線管を使用して保護し、隠します。

EPOS

THE POWER OF AUDIO